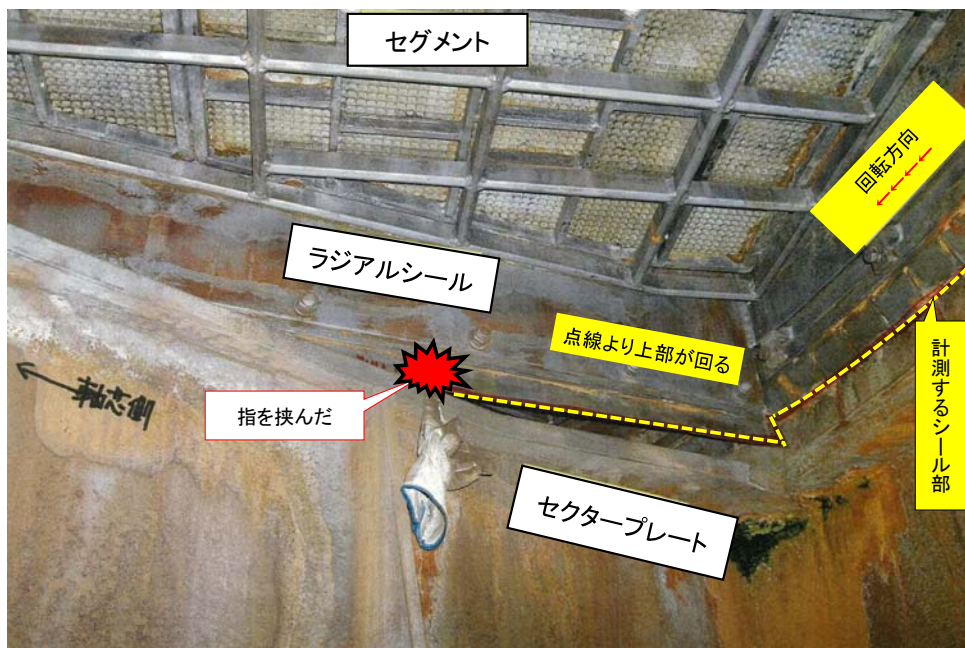


ガスエアヒーターのセグメントを回し中 指を挟んだ

【発生状況】

ガスエアヒーターのシール計測のため セグメントを手動で回していたところ、セグメントから手を放すタイミングが遅れ、ラジアルシールとセクタープレートの間で指を挟んだ。



【作業状況】



ラジアルシールを持ち、セクタープレート側を背にして、回転方向に引っ張って回していた。

【原因・問題点】

- ① 挟まれる可能性がある箇所を持っていた。(セグメントを回転させる際にラジアルシールを握っていた)
- ② 後ろ向きの体勢(回転方向と逆向き)であったため、セクタープレートとの距離感をうまく認識できていなかった。
- ③ 駆動部(減速機)が整備中だったため、人力で回転させなければならなかった。
- ④ セグメントを回す2名の間での連絡合図が不十分だった。

【対策】

- ① 回転体等の挟まれる危険がある箇所には手を置かない。
- ② 作業体勢については、効率だけでなく安全性にも配慮した姿勢をとる。
- ③ 手指を挟まれ等の危険がある作業は、できるだけ人力以外の方法で作業を行う。(駆動部を復旧してから、エアモーターで回転させるなど)
- ④ 共同作業では声掛け・合図で安全確認を確実にを行う。